
◇◆ほっかいどう防災教育協働ネットワーク◆◇

～メールマガジン第33号（平成29年3月24日発行）～

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◆ I N D E X ◆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

【1】トピックス

- ・「防災学ぶランド in くしろ」（3/11 開催）
- ・「ほっかいどう防災ひろば in チ・カ・ホ」（3/12 開催）

【2】協働プロジェクト「北海D o 防災かるた」 ついに完成！

【3】協働ネットワークの事業について

【4】ネットワークへようこそ！

- ・3月24日（金）現在 94（30個人・64団体）
- ・北海道広域避難アシスト協会

【1】トピックス

この3月には、2つの協働イベントが開催されましたので、開催結果をお知らせいたします。

■「防災学ぶランド in くしろ」（3月11日開催）

釧路管内のネットワークメンバーが主催する防災啓発イベント「防災学ぶランド in くしろ」を、3月11日土曜日、イオンモール釧路昭和店を会場に開催しました。

地震や気象の実験装置や耐震性を学ぶ紙工作、防災グッズなどのコーナーを設置したほか、3Dによる防災映像放映や釧路東高等学校の生徒による災害ボランティア活動報告会、霧多布高等学校の生徒によるチリ地震津波に関する紙芝居など、盛り沢山な内容で多くの市民が集まりました。

ネットワークの協働プロジェクトとしては、札幌以外の地域で最大規模のイベントとなりましたが、プロジェクトメンバーの北海道釧路総合振興局や釧路地方气象台をはじめ、釧路町や浜中町、釧路地方建設協会など地域の自治体や団体などの連携で、盛況のうちに無事イベントを終えることができました。

■「ほっかいどう防災ひろば in チ・カ・ホ」 （3月12日開催）

北海道開発局、札幌管区气象台、道をプロジェクトリーダーとし、官民14の機関が主催する防災啓発イベント「ほっかいどう防災ひろば in チ・カ・ホ」を、3月12日（日）札幌市駅前通地下広場（チ・カ・ホ）の札幌駅側イベントスペースを会場に開催しました。

気象予報士会北海道支部による「お天気ランキングクイズ」をはじめ、ステージイベントはほぼ満席で、「はれるん」など各機関のキャラクターと写真撮影をする親子の姿も多く見られました。また、自然災害に関するさまざまな模型やパネル、防災グッズ、長期保存可能なパンなどの展示にも、多くの方が訪れ相談や説明を受けるなど、盛況のうちに無事イベントを終えることができました。

どちらのイベントも、幅広い年齢層の方々に、楽しみながら防災を学んでいただけたと感じています。また、多くのテレビ・新聞にも取り上げられ、東日本大震災から6年となるこの時期に防災について情報発信ができました。

今後も、一般の方々に直接学んでいただける、このような取組を協働で実施していきたいと思いますので、皆様のプロジェクトへのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

【2】協働プロジェクト「北海D○防災かるた」 ついに完成！

日本気象協会北海道支社が発案し、道をプロジェクトリーダーとして内容の検討を行ってきた「北海D○防災かるた」がこのほど完成し、3月29日（水）より販売を開始します。

皆様から寄せられた文案をもとに、幅広い防災の知識を盛り込んだ読み札と、子ども達が楽しく学べるよう、色使いやキャラクターなどに様々な工夫を施した取り札の裏側にはわかりやすい解説が記載されており、かるた遊びを通じて、楽しく「北海道の防災」が学べる教材となりました。

北海D○防災かるたは、3月29日（水）に恵庭市で実施される「えにわっ子ジュニアセミナー」で、取り札をデザインした日本気象協会北海道支社の住友静恵さんを講師に披露され、同日より販売を開始します。

価格は1部1,200円（税別）。日本気象協会北海道支社で取り扱います。入手希望の方は、電話でお問い合わせ下さい。（電話番号は011-622-2230）

【3】協働ネットワークの事業について

3月14日（火）にネットワークの運営等に関する協議を行う連絡会議（16機関で構成）を開催し、平成28年度の運営報告と、平成29年度の運営計画について協議しました。

平成28年度はネットワークのメンバーが一堂に集う場として初のシンポジウムを開催したほか、協働アイディアの募集を行うなど、ネットワークの連携を促進するための様々な取組を行いました。

平成29年度もこれらの取組を継続して行うとともに、以下のような取組を進めていきます。

- 1) ネットワークのメンバーが行う防災教育の取組を事務局へ積極的に情報提供いただき、道のフェイスブックを活用し、発信。
- 2) ネットワークメンバー自身の知識向上のため、各機関・団体等が実施する研修会などへの参加機会を提供。
- 3) ネットワークで検討・作成した「D o はぐ」や「北海D o 防災かるた」を普及させるための取組を実施。
- 4) ネットワークの強みを活かした協働プロジェクトを推進。特に地域単位のプロジェクトを促進。

このメールマガジンも積極的に活用し、ネットワークの皆さんと防災教育情報の共有に努めたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【4】ネットワークへようこそ！

3月24日（金）現在のネットワーク構成員数は、94（30個人・64団体）です。

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/network/>

このコーナーでは、参画いただいている皆様の横顔を順次、ご紹介していきます。

今回は、東日本大震災により北海道へ避難している方々をサポートするとともに、震災の経験や教訓の語り部の活動も行っている「北海道広域避難アシスト協会」です。

【北海道広域避難アシスト協会】

北海道内では、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの避難者として1,953名の方が登録されています。（平成29年2月13日時点）

平成29年3月末には、避難指示区域及び一部地域を除く福島県の全域にて、みなし仮設住宅の無償提供が終了する中で、避難者の生活基盤をどう再建していくかが課題になっており、北海道広域避難アシスト協会では、北海道や宮城県の委託により、避難者宅の戸別訪問や情報提供、相談会などの被災者支援事業を実施しています。

また、避難者を支援する活動と並行して、東日本大震災の体験談を伝える活動を実施しており、代表理事の佐藤伸博さんは「北海道防災教育アドバイザー」として自治体や学校

への自らの被災経験などについて講演を行っています。

【編集後記】

早いものでもう年度末の3月です。平成28年度は、熊本地震から始まり、内浦湾地震や8月から9月の大雨等災害、そして12月の札幌周辺の豪雪など、災害に見舞われた1年でしたが、このネットワークでは、メルマガ本文でも触れていますとおり、みなさまの協力の下、新しい取組にチャレンジした1年でもありました。

D oはぐの完成・お披露目・普及、るもい防災教育ねっとの立ち上げ、協働シンポジウムの開催、釧路イオンや札幌チカホでの協働イベント、北海D o防災かるたの検討・完成など、それぞれ良い結果を出せたと感じています。

3月12日のチカホイベントでは、朝から沢山の方々が立ち寄ってくださり、熱心に展示やステージイベントをみていただきました。私も防災用品の使い方について説明を伺ったり、ドローンの操縦体験をしたりしながら、来場された方ともお話ししました。あるご婦人は、阪神淡路大震災を体験されていて、地震前にタンスの向きを変えていたので、下敷きにならなかったのよ、今もその時の経験から知り合いの方におうちの中での防災のお話しをするのよ、と話してくださいました。おー、なんと心強い、これからも広めてくださいね、とお願いしました。

4月からの新しい年度も、道内津々浦々に防災教育が届きますよう、引き続き、連携を強く、広く、そして楽しく！行っていきましょう。よろしく願いいたします。(つ)

=====

発行：ほっかいどう防災教育協働ネットワーク事務局

(北海道総務部危機対策局危機対策課)

・最新情報発信中！フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」

<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>

・ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>